

令和6年度 第3回宮城県産業教育審議会 会議概要

日 時 令和7年2月6日(木) 午後2時から午後4時まで
場 所 宮城県庁行政庁舎4階 庁議室
出席委員 川島滋和委員、今野薫委員、半沢章委員、佐藤千洋委員、後藤美恵子委員、
山内明美委員、勅使瓦理恵委員 以上7名出席、5名欠席
県出席者 遠藤副教育長
菊田高校教育課長
高橋高校教育課教育改革担当課長
吉田高校教育課副参事兼総括課長補佐兼総括室長補佐
伊藤高校教育課総括課長補佐 他関係職員(事務局)

次 第

1 開会

- 2 開会挨拶 遠藤副教育長
川島産業教育審議会会長

3 報告

- (1) 第2回宮城県産業教育審議会報告

4 審議

- (1) 提言(最終案)について

- 今野委員： 産業界としても求める人材をどう育成していくかという議論をしている。委員の皆さんの意見をよくまとめていただいたと思う。提言の中において、「地域」と「圏域」の混用があるのではないかと思った。
→事務局： 圏域という言葉を広域的な意味で使っていたが、混用されているところもあるかもしれない。あらためて精査させていただく。
- 半沢委員： 本文においては、多様な意見をうまくまとめてもらったと思う。お願いとしては、産業教育を進める上での「目指す生徒像・人間像」というものを「はじめに」の後に入れられないか。
さまざまな会合で意見交換する中で、ある大学の先生が「AIの浸透により、消えてしまう業務もあり、その方がいずれ中小企業にも回っていくだろう」と話しておられた。それがいつの時代なのか、どのくらいの規模なのかはわからないが、翻って、産業教育の学びを考えていくと「AIの普及が進んでも必要とされるスキルを身に付ける」ことができるのではないかと考えている。独創性、すなわち発想力や課題解決能力、チャレンジ精神、そして体験的な学習等、産業教育が出来る学びがあるのではないかと読ませていただいた。
したがって、本文を変えるというわけではなく、冒頭に「産業教育が目指す生徒像・人間像」を掲げてみてはどうかと思っている。それによって、読み手に産業教育の強みや魅力を訴求できるものになるのではないかと思う。
→事務局： 環境の変化に対応できるようなスキルや企画立案する力、アイデア、そういったものをもった人材育成が重要だと考えている。本文中には盛り込んだつもりだった。
- 半沢委員： 可能ならば、目立つように冒頭に外出しできないかとあらためてお願いしたい。
→事務局： 承知した。修正させていただきたい。
- 佐藤委員： 具体性を加えて、わかりやすくまとめていただいた。
気になったことは2の(1)に「農福連携」というキーワードを入れてもいいのではないかという点である。福祉の対象はこれまで、障害をもった方や高

齢者であったが、生活困窮者や貧困の中にいる子供さん、不登校の学生さんなども含まれてくる。そういった方の自立を支援していくことはこれから求められていくので、盛り込んでもいいのではと思う。

もう一つは2（3）で「起業家精神」という文言がなくなってしまったが、意図的にそうされたのか。これからは VUCA の時代を生き抜くための教育プログラムが求められており、重要だと思う。特に都市部に比べて地方の学生ほど「起業家精神」が求められると思うがどうか。

→事務局： これまで御意見を頂戴してきて、「起業家精神」も「アントレプレナーシップ」も、まだ世の中に浸透しているとは言えず、誤解を招くと考え、内容として盛り込みながら文言としては削除した経緯がある。

○ 山内委員： 多様な意見が出ていたと思うが、まとめて頂いて感謝。

「少子化」については、一生懸命に網羅的に知恵を出し合って考えて出した提言であっても、自分たちの想像力が追いつかないスピードで進んでいるため、これだけまとめてもその速さに届いているのかの実感がもてずにいる。

○ 後藤委員： 簡潔にまとめていただいたと感謝している。今、委員の皆さんの御意見をお聞きして、目指す人間像は必要かもしれないと思った。これを読んだ生徒たちが自分たちは期待されていて可能性を秘めた存在なのだと希望をもてるような提言に仕上げていく必要があるのではないかな。

○ 勅使瓦委員： よくまとまってわかりやすくなっていて感謝したい。御意見を伺い、目指す人間像については事務局から話があったように、要所要所に、それぞれの専門学科の専門的な知識や技術を持った職業人の育成、地域産業を支える人材の育成、コミュニケーション能力など実践的で実務的な能力を有する人材などと書かれていたのがそうかと思う。7学科の中でそれぞれ目指すものがあるため、具体的な内容をあげることは難しくまとめにくいかもしれないが、地域が求める人材という点であった方がいい。

○ 佐藤委員： 「起業家精神」については、専門委員会でも誤解があったこともあり、このままの書きぶりでもいいように思う。

○ 今野委員： 「起業家精神」については、意欲をもって物事にあたる人物像というような内容を盛り込んではいかがか。

○ 川島委員： 少子化を脅威としてとらえるのではなく、少し前向きにとらえられる表現があるといいという、先ほどの後藤委員の御意見に賛成である。

○ 山内委員： 皆さんの御意見を伺いながら、「起業家精神」という表現についてはもう少し広い「アソシエーション」（共通の目的や関心をもって自発的に集まる集団）のようにとらえていいのではないかと思った。

また、今野委員がおっしゃったことや後藤委員がおっしゃったように、ネガティブな意味の「少子化」の捉えから脱却して、「小サイズ」で考えていく発想に切り替え、豊かな地域資源の中で人を育て、海外とやりとりしていく力を育てるところに可能性があるのではないかと考える。その上で逆噴射のような形で、ちょうどいいサイズの地域から中央へ発信していけたらいいのではないかと考える。

○ 半沢委員： 「少子化をチャンス」ととらえるというのは、生徒にとって重要な考え方であると思う。ただ、現在の経済情勢の変化や産業競争力の中では、社会保障にしろ円の価値にしろ不安定要素が多く、人口減少の下で経済状況の安定が図られるまでは経済状況としては「チャンス」とまでは言えないのではないかと考えている。

○ 後藤委員： 先ほどの意見について、「少子化は生徒にとっては学びのチャンス。自分の力を存分に活かせる時代」ということを提言の中でうまく表現できると、生徒

の視点も地域に向くのではないかということも補足したい。

- 川島委員： 「魅力発信の在り方」を追記したのはとてもいいと思う。キャリアデザインの一環として体験型の学習に繋げていく等学校による工夫が可能ではないか。
- 半沢委員： 昨年度から、連携・協働が必要であるという議論は続いていると承知している。圏域の企業と学校との連携については推進していくと同時に助力も惜しまないところであるが、実際どのような例がどのくらいあるかお聞きしたい。
- 勅使瓦委員： それぞれの学校や地域、学科によって連携の仕方はさまざまだが、例えば本校では児童館等で読み聞かせをするなどの出前授業等をしている。工業系であればものづくりの出前授業など。普通科でも地域を盛り上げるためにどんなことをしたらいいのか自分たちができることを探究学習の中で考え、発信もしている。
- 山内委員： 連携ということでは、たとえば南三陸高校がペヤングさんとのコラボレーションをして、南三陸町の水産資源を使った製品を販売している。
- 川島委員： 大学の入試の面接などでも、企業連携を大学の魅力として選んでくれる学生もいる。3の「魅力発信の在り方」は、各校現場のそれぞれの現状から、さらに工夫が必要だと感じる。全体構成としては「はじめに」が加わり、大きな構成は変わっていないが「職業拠点校」をわかりやすい文言に修正いただいて、読みやすくなっていると思う。
- 佐藤委員： 「専門単独校」の在り方として他校に向けた遠隔授業配信とあるが、これは専門単独校だけが発信すると読めるがどうなのか。
→事務局： 専門単独校には充実した施設や環境資源が揃っているのもので、それらを利用した配信ができると考えて「センター的機能をもたせ」という書きぶりにした。受信はどの学校でも可能である。
- 佐藤委員： 少し書きぶりに工夫をしてもらえるといいのではないか。
- 今野委員： 先生方には御負担だと思うが、地域企業のことを知り、地域への愛着や地域との連携を高めるような活動をお願いしたい。教育プログラムから外れるかもしれないと思うが、地域に根を下ろす人材が少ないことに危機感を抱いているので発言した。
→事務局： 1（3）、2（3）のデュアルシステムのところに盛り込ませていただいた。引き続き行ってまいりたい。

（2）その他 特になし

5 その他

提言書の提出までの日程について

6 閉 会